

J-41

井の頭池における都市化に伴う水利用の変遷に関する調査研究

Surveillance study about the changes for water supplies accompanying the urbanization in the Inokashira pond

○日比野百合子¹, 畔柳昭雄², 坪井塑太郎³

*Yuriko Hibino¹, Akio Kuroyanagi², Sotaro Tsuboi³

Abstract: Springwater attracts attention as a point of contact which calls back relation by people and water. The pond serves as an important place which can come into contact with water with natural people in the existence form. In this research, in order to understand the function which the affected pond has in circumference environment, it was deeply involved in people's life from the former, and the Inokashira pond located at the center of the metropolitan Inokashira royal gift public that new positioning has been carried out by advance of urbanization was selected as an object place. As a result, In the pond where use was seen with a life or leisure, the relation with people faded by urbanization. However, it is thought that it is being begun now through waterside space build a new relation by people's measure.

1. はじめに

近年, 人と水との係わりを呼び戻す接点として湧水が注目されている. しかし, 湧水をとりまく環境の変化により, 水量の減少や水質の悪化が見られ, 湧水と人とのつながりが希薄化する傾向が見られる.

一方, 湧水は, 古くから身近な水源や生活, 安らぎの場として利用され, 人々に親しまれるとともに, 良好な水辺環境を形成してきた. 中でも池としての存在は, 観光的に利用されたり, 公園で潤いを創出する場として利用されるなど, 人々が自然の水と触れ合える大切な場となっている.

そこで本研究では, 周辺環境に影響を受ける池のもつ機能を理解するため, 過去から現在に至るまでの池周辺の都市化に伴う池における水利用の変遷を把握することで, 今後の水環境を含む都市整備に対する一示唆を得ることを目的とする.

2. 調査概要

Table 1 に調査概要を, Figure 1 に調査対象地を示す. 本研究では, 従来から人々の生活に深く係わり, 現在も名残を残しつつ, 都市化の進行により新しい位置づけがされてきている東京都武蔵野市, 三鷹市にまたがる都立井の頭恩賜公園の中心に位置する“井の頭池”を対象地として選定した.

3. 井の頭池における水利用の変遷

井の頭池の水利用の変遷を都立井の頭恩賜公園の歴史的的事象, 周辺地域での出来事及び井の頭池の水利用別にまとめたものを Figure 2 に示す. 水利用は井の頭池を利用する行為として, 親水利用, 祭・イベント利

Table 1.outline of study

調査対象地	東京都武蔵野市・三鷹市 都立井の頭恩賜公園 井の頭池	
調査期間	2012年7月26日・8月16日～9月16日	
調査方法	現地調査	井の頭池での利用形態
	文献調査	井の頭池での利用形態 都立井の頭恩賜公園の歴史 武蔵野市・三鷹市の歴史

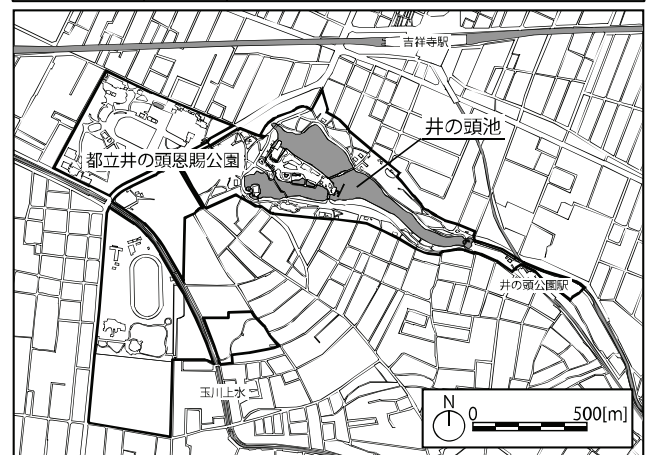


Figure 1. ground for investigation

用, 観光利用, 生活利用と大きく4つに分類した.

井の頭一帯は幕府の御鷹場として有名な土地であった. 江戸時代に徳川家康により湧水が発見され, 神田上水として庶民に生活利用され, 人々の生活に不可欠なものとなっていた.

明治から昭和初期にかけては, 神田上水廃止後も神田川沿いの農業用水として利用されていた. 大正6年5月1日に, 当時, 郊外公園として都立井の頭恩賜公園が開園し, 茶屋の料理水として使われていた. また, 親水利用として天然池プールが開設され, 多くの人で賑わいを見せ, この頃は, 良質な水質であったことがわかる. その後, 関東大震災を契機に, 都心から郊外に移り住む人が増え, 周辺地域の市街地化が急速に進んだ. また, 鉄道の延伸整備により訪れる東京市民が

1 : 日本大学・学部・海建, Nihon Univ. 2 : 日大理工・教員・海建 Prof, CST, Nihon Univ, Dr. Eng

3 : 日大理工・教員・海建 Assistant Prof, CST, Nihon-U., Ph. D.

時代	年代	都立井の頭恩賜公園内の井の頭池における水利用				背景	
		親水	祭・イベント	観光	生活	都立井の頭恩賜公園 歴史的事象	周辺地域
江戸	1590				●1606(慶長11) 徳川家康が洗水でお茶を淹れる ●1653(承応2) 神田川上水として江戸庶民の飲料水となる	●1590(天正18) 徳川家康の命で堀水邊を調査 井の頭池・湧水発見される 神田上水事業開始	●1659(万治2) 江戸の大火により吉祥寺門前町から 五日市街道沿いに住民が移住
	明治	●1899(M32) 学校行事で利用されはじめる			●1879(M12) 都会人の遊楽地として賑わう	●1898(M31) 神田上水廃止	●1899(M32) 甲武鉄道吉祥寺駅開設 ●1914(T3) 第一次世界大戦勃発
大正	1917	●1919(T8) 静寂なる散策の場所として親しまれる ●1921(T10) 天然池プール・幼児用の遊歩池に ては遊ぶことができた ●1924(T13) 通学			●1917(T6) 農業用水としての水源 ●1927(S2) 池の水でご飯を炊いていた	●1917(T6) 都立井の頭恩賜公園開設 (公園面積: 263,165㎡) ●1921(T10) 天然池プール・幼児用の遊歩池開設 (池尻・井の頭池の東側の水門近く) 日本最初の公園プールとしてかなり人気	●1923(T12) 関東大震災 市街地化が急速に進む 住宅地開発がはじまり 農村から郊外住宅地へ
	昭和	●1929(S4) ボート遊び 木製の手漕ぎボートのみ だったが当時が人気であった ●1934(S9) 泳む ●1936(S11) ボート遊び 20人ほど乗れる 細長いボートが一隻増加	●1933(S8) 水泳大会開催		●1936(S11) 遊覧船として運航 ●1940(S15) 遊覧船廃止	●1927(S2) 井の頭公園内に茶屋営業開始 ●1929(S4) ボート場開設 ●1933(S8) 天然池プール廃止 25m水泳プール開設 幼児用のプール設置(井天竺付近) ●1949(S24) 井の頭公園駅下にプール開設	●1934(S9) 帝都電鉄吉祥寺駅まで開通 ●1939(S14) 第二次世界大戦勃発 ●1945(S20) 終戦 都市化が急速に進む 三鷹市戦後最大の人口増加時期
和	1951	●1950(S25) 井の頭公園駅下プール約圃化	●1950(S25) 地元劇団のシェイクスピア劇 ボクシングの試合等 開催 ●1951(S26) 納涼スクエア・ダンスの集い (納涼花火大会) ミス井の頭のコンテスト		●1954(S29) 撮影会 野外茶会 草芸点 カメラ祭 ●1982(S57) 『新東京百景』指定	●1954(S29) 井の頭公園駅下のプール埋立 ●1955(S30) 井の頭公園内に野外ステージ完成 ●1959(S34) 湧水減少・池水枯渇・水質汚染	●1955(S30) 周辺地開拓 東京のベッドタウンとして発展 武蔵野市戦後最大の人口増加時期 吉祥寺駅乗降客数急増 駅周辺も繁華街として活況
	平成	●1954(S29) 水結した芝公園を 生息 ●1959(S34) スクエアダンス ロケ地として使われる	●1962(S37) 井の頭公園納涼の夕べ」開催 野外ステージにて、日本舞踊 民謡とおはやし、日本民謡 日本舞踊、奇術、嵐松はやし 吹奏楽、パレード	●1954(S29) 撮影会 野外茶会 草芸点 カメラ祭 ●1982(S57) 『新東京百景』指定	●1939(S14) 野外ステージ周辺から池尻まで 野草や麦の畑があった 池の畔を釣って食べる人もいた	●1983(S38) プール廃止 ●1985(S60) プール撤去 ●1987(S62) 井の頭公園神田川の親水河川工事が完成 ●1996(H8) 三鷹市 井の頭池の湧水復活事業着手 ●2001(H13) 「三鷹の森ジブリ美術館」が開館	●1965(S40) 武蔵野市 13万人台突破 1977(S52) 三鷹市 16万人台突破 水質浄化に向けた機運が高まる 「よみがえれ!! 井の頭池! 運動始まるさっけ!!」 ●2004(H16) 大雨が続き多量の湧水により池底まで溢き渡る ●2006(H18) 吉祥寺クラフトデザイン指定 『都市観光 北と南が一体となった回遊性のある町』
	2006	●2007(H19) アートマーケット	●2007(H19) ネイチャーwomanプログラム	●2007(H19) 都市観光事業 「吉祥寺七福神めぐり」創設		●2006(H18) 井の頭恩賜公園 100 年実行委員会発足 ●2007(H19) 銀やみ自給キッチン ●2011(H23) ミシラン・グリーンガイド・ジャポン」認定 (公園面積: 386,711㎡)	

Figure 2. changes for the water supplies Inokashira pond

急増した. このことで, 公園周辺の都市化が進み, 公園内部にも都市公園としての施設が作られるようになった. そして, 観光・祭・イベント利用が加わり, 池としての観光・景観資源機能を持つようになった.

昭和中期になると, 第二次世界大戦が終戦し, 都心からの移転者が増え, 池の周辺は都市化が急速に進んだ. そのため, 生活利用としての水利用はなくなった. また, 「ホテルの夕」では2万人が, 納涼花火大会では10万人以上が来訪し, 賑わいを見せた. 昭和29年1月には-6.3℃を観測し, 氷結した池の上でスケートをしていたなど, 行楽としての祭・イベント利用が盛んな時期であったことがわかる.

昭和後期に入ると, これまでの急速な都市化の影響で井の頭池の水質悪化が顕著となり, 人々は池から遠ざかり, 直接水に触れる利用は減少した.

現在の利用形態は, 従来から残るボート, 水辺での読書, 楽器演奏などの間接的な水利用が多く見られる. また, 新しく周辺地域と一体となり, 観光地化が推進されてきている.

4. おわりに

江戸時代には人々の生活に不可欠なものとされていた井の頭池は, 明治から昭和にかけて, 行楽としての利用を見せたが, 都市化の進行による水質悪化によって退けられた. しかし, 現在では水辺空間として必要とされ, 地域と一体とする観光地として位置づけられている. 以上により, 都市化によって希薄化した人と水との関係は, 人々の取り組みによって, 水辺空間を通して新しい関係を築きだしていると考えられる.

5. 参考文献

- [1]井の頭公園検定実行委員会:「いのけん」, pp.13-74, 2012
- [2]武蔵野市:「武蔵野市百年史 記述編 I」, pp.443-469, 2001
- [3]三鷹市史編さん委員会:「三鷹市史」, pp.1389-1427, 1970
- [4]土屋恂:「懐かしの吉祥寺昭和29・40年」, pp.10-35, 2011